

但馬卓球協会のあゆみ

堂垣 秀康

歴代会長

		岡本喜四郎(豊岡市体育会長)	
初代	1973 年 昭和 48 年 4 月	遠藤嘉吉郎	21 年間
2代目	1994 年 平成 6 年 4 月	長谷川利幸	2 年間
3代目	1996 年 平成 8 年 4 月	堂垣秀康	26 年間
4代目	2022 年 令和 4 年 4 月	正見敏治	～現在

協会のあゆみ

- 岡本会長は豊岡市体育の会長で当時各種種目の協会の組織が無く各種大会の会長を務められていた。卓球協会はまだ組織が出来ていませんでした。
- 1973 年 昭和 48 年 4 月
岡本喜四郎会長の死去により遠藤嘉吉郎会長就任
- 1973 年 昭和 51 年 4 月
遠藤会長は豊岡市卓球協会长と兼務となる。
- 1973 年 昭和 51 年 4 月
理事長に堂垣秀康が着任(昭和 40 年前より大会運営を有志と共に行って来た)
- 1976 年 昭和 51 年 ?月
但馬卓球協会の名称を村岡町の個人が保持しておられ遠藤会長と長谷川副会長が村岡に出向き豊岡に協会を持ってこられた。
- 但馬卓球協会の組織づくりが始まる。
- 事務局は岡田運動具店に置き社員さん達の大きな協力があった。当時岡田運動具店には多額の借金(ツケ)があり大会の案内など手配りなどの手づくりの大会を開催していたが収入増加を図り大会を増やした。また、岡田社長とツケの話をして全額免除していただいた。ツケの中身は、中体連が大会の開催毎に岡田運動具店のトラックと社員を使って卓球台を運搬していた、この費用が一切支払われていなかった為の借金と判明した。

- 1988 年 昭和 63 年 4 月
豊岡市総合体育館 竣工
- 1988 年 昭和 63 年 8 月 1~5 日
第 57 回全国高校体育大会(インターハイ)の開催
- 1994 年 平成 6 年 4 月
遠藤嘉吉郎会長が豊岡市体育協会の会長に就任され但馬卓球協会の会長を離任。
- 1994 年 平成 6 年 4 月
遠藤会長が離任され長谷川副会長が但馬卓球協会の会長に就任。
- 1996 年 平成 8 年 4 月
長谷川会長の病死により堂垣秀康会長が誕生。
- 1998 年 平成 12 年 6 月 23 日~25 日
温泉卓球近畿シリーズ 城崎大会開催
(会場:県立城崎大会議館・城崎中学校体育館)
- 2005 年 平成 17 年 9 月 30 日~10 月 1 日
のじぎく兵庫国体リハーサル大会 開催
17 年度全日本卓球選手権大会(団体の部)
- 2006 年 平成 18 年 10 月 6 日~10 日
第 61 回国民体育大会 卓球競技 開催(会場:豊岡市総合体育館)
- 2009 年 平成 21 年 5 月 3 日
但馬で最初のラージボール大会を実施した。
- 2012 年 平成 24 年 4 月 24 日
遠藤嘉吉郎豊岡市体育協会会長が死去。
- 2022 年 令和 4 年 4 月 10 日
組織改革により堂垣秀康会長は退任し新会長に正見敏治氏が就任。

◆ 豊岡市総合体育館の建設について

兵庫県に於いて全国高校体育大会(インターハイ)昭和63年の開催に際して県内での競技種目の確保があり、当時の市長平尾源太夫氏より卓球を誘致したいとの話を頂き、また会場を新たに体育館を建設するとの話を頂き、当時は卓球協会の組織は微弱であり人口 5 万人の街での大会運営は出来ない状態であった、そこで豊岡だけでは無理と考え但馬の卓球者全員で行うこととした。体育館の建設費用に関して当時の地元出身の国会議員谷洋一氏の努力により国からの補助金の確保の援助を頂いた。

◆ 体育館のアリーナについて

当初は卓球台 12 台設置の広さと観覧席は 10 段四方にあり外周にランニングコースが作られた設計になっていた、ところが卓球台が 20 台必要となり再三に亘り設計変更を依頼した、また豊岡市体育協会としてインターハイ後の利用についての話の中で、卓球だけの体育館ではないとし、岡田常任理事(バレーボール協会会長)より後 4 メートル広くしてほしいと依頼、それにより正式のバレーコートが 4 面取れることとなり観覧席を減らし現在の広いアリーナになった。

◆ 体育館アリーナの連暖房設備について

当初は冷暖房設備の計画は無く、豊岡市体育協会の会長橋本 勇氏と共に今後の体育施設は冷暖房が必要と再三市長に掛け合ったが許可されず、豊岡市体育協会は協会全種全員による寄付活動を展開し多額の寄付金を集め冷暖房設備が設置されることとなった。体育館の玄関正面に体操の立像の裏側に多額の寄付の方々の名前が記載されています、卓球協会も全員から寄付をして頂きました遠藤会長は 100 万円寄付、堂垣 30 万円寄付。

◆ サブ体育館の建設について

豊岡市体育協会は兵庫国体が開催によりインターハイの開催経験により卓球競技を豊岡市総合体育館での開催が決定し、開催に関してサブ体育館が必要と考え豊岡市議会にサブ体育館の建設の陳情を2度に亘り提出し、議会で承認された。にもかかわらず、当時の市長中貝宗治氏はプレハブで開催すると建設を却下されサブアリーナの建設は夢破れた、国体はアリーナとレンタルプレハブでの運営となった。

現在の新市長 関貫久仁郎氏により体育館の大改修工事が 2023 年3月から始まりサブアリーナの建設及び玄関、事務所の改修やアリーナ大屋根の葺き替え、トイレの改修が計画されているので 2024 年の完成が待ち遠しく期待が多大、新しく開催する大会を期待しています。